巻　頭　言

常務取締役
知多製造所長　小畠賢介

昭和50年前後の日本の鋼管年間生産量は900～1 000万トンのレベルで微

増あるいは横ばいに推移してきたが，昭和53年は1 100万トン台，昭和54年は1 200万トン台と増加傾向に転じた。これは，おもに石油やガスなどのエネ

(2) 製品品種 中径継目無鋼管設備の設置により継目無鋼管の製造可能範囲

は外径426mm肉厚40.5mmまでに拡大された。また，前述の各熱処理設備の導入により，油井用鋼管ではAPI 5AC, 5AXがすべて製造可能になったほか，コラプス抵抗性に優れたKO-95T, -105T, 耐SSC性に優れたKO-85SS,